

編集後記

本特集の論考はいずれも現場における日々の思考と実践の賜物であり、語学教育誌にも掲載し得る水準であると自負している。ところで、この特集であえて扱わなかった大きな論点があることにお気づきの読者も多いはずだ。それは、AIと英語教育の関係である。この論点が本特集の各論を容易に呑み込んでしまうほどの広がりや深さを持っていることは、言を俟たない。生成AI、とりわけ大規模言語モデル(LLM)の出現によって、英語教育は新たな局面に入っている。数年前までAIはせいぜい辞書の機能の延長であった。しかし、現在のAIは英文の推敲、研究発表スライドの作成、さらには英会話の話し相手に至るまで、これまで英語教員の支援が行き届かなかったとことを肩代わりしてくれるようになった。実際、AIを用いれば、授業における英語プレゼンテーションの原稿チェックは数秒で完了する。以前は原稿を教員が持ち帰って添削し、翌週返却していたことから考えると、「素晴らしい新世界」の到来である。こうした「新世界」において、教員が自らの役割が奪われたと感じ、AIを脅威として悪魔化し、禁書化することは簡単だ。しかし、AIの教育現場における利用の是非を個人の感想と実感のみに基づいて、いま性急に白黒をつけるのは賢明とは言えない。それがどのようなインパクトを持ちうるかについては歴史の検証を待たねばなるまい。むしろいま、高等教育に求められているのは、試行錯誤を繰り返しながら、ある種の落とし所を見極める作業であろう。もはや、AIがない「旧世界」に戻ることはできないのだ。ならば「新世界」のより良いあり方を模索するのが大学の責務ではないか。秀でた専門性のない者がAIだけに頼って知的(?)生産に従事することは、走力のない素人がオリンピック向けの高反発厚底シューズを履いて記録を狙うのと似ている。彼/彼女らはいつか躓き、ゴールに辿り着かないであろう。この意味で本学が掲げる実力主義は、AIと協働する新しい知のあり方を創出する上で重要な意味を持つ。AIを効果的かつ主体的に活用し、知的生産のための英語教育の役割を再定位してゆくことこそ、この「すばらしい新世界」において理科大に期待される貢献なのではないか。AIにできないこと、それは、プロンプトなしで自ら考えることである。Cogito ergo sum。

(佐藤 憲一：野田キャンパス教養部)

次号予告

特集：現代幾何学の地平

- 現代幾何学の世界一分野を越えてつながる数学—
- 理論物理学と共に発展してきた微分幾何学
—相対性理論・ゲージ理論を数学的に学ぶための学問—
- 低次元トポロジーへの招待
- 射影代数曲面の幾何学
射影平面曲線から射影代数曲面へ
- 幾何学と物理学 時空の量子化とは何だらう
- グラフの「綺麗な」表現

編集委員会 編集委員

佐々木健夫	理学部第二部 化学科
松田 学則	理学部第一部 応用化学科
小谷 佳子	理学部第二部 数学科
西尾太郎	理学部第二部 物理学科
橋詰 峰雄	工学部 工業化学科
藤沢 匡哉	工学部 情報工学科
山本 隆彦	創域理工学部 電気電子情報工学科
早瀬 仁則	創域理工学部 機械航空宇宙工学科
塚本 良道	創域理工学部 社会基盤工学科
梅澤 雅和	先進工学部 機能デザイン工学科
梅澤 正史	経営学部 ビジネスエコノミクス学科
佐藤 憲一	教養教育研究院 野田キャンパス教養部



雪景色の長万部キャンパス

SCIENCE FORUM 科学フォーラム

通巻 451 号
(創刊 1984 年 7 月)

2026 年 2 月発行 / 第 43 巻 1 号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 佐々木 健夫 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL : 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、本学広報課をお願いします。

TEL : 03-5228-8107, FAX : 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当: 亀山 亜土, 白井 直美)

e-mail : henshu@admin.tus.ac.jp

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載